

つどい

第 434 号
2024.12.1

発行・豊中歴史同好会
責任者 小川 滋

難波からの北上路十（下）

『古代史の海』編集代表 上遠野 浩一



せられた記事で、東大寺文書(26)にも同じ
ものが載る。

①『平安遺文』○一太政官牒○東南院文書
五ノ三

□(太) 政官□□

寺家荘壱区地玖段□□

板倉式宇へ一長二丈 広一丈七尺一長

一丈八尺 広一丈五尺

甲倉壱宇へ長一丈六尺三寸 高九尺

桧皮葺五間板敷東屋壱宇へ長四□□□

□□□五寸 高一丈四尺

難波からの北上路十（下）

『古代史の海』編集代表

上遠野 浩一

塚口義信先生 香芝市特別功労者表彰

草葺九間真屋壱宇へ長六丈五寸 広□

(二カ) 丈五尺五寸 高一丈一尺

草葺九間東屋壱宇へ長六丈四尺六寸

広一丈六尺 高一丈一尺

右、在三摂津国西成郡江北、今置

二駅家一、

勅旨荘壱区地壱町伍段

板倉式宇へ一長三丈四尺 広二

丈二尺 高一 丈五尺 一長一丈八

尺八寸 広一丈六尺 高一 丈一

尺

甲倉壱宇へ長二丈三尺 広一丈

五尺 高一丈八尺

五間東屋壱宇へ長三丈七尺 広一

丈五尺七寸 高一丈二尺

右、在三同国東生郡江南、今入三寺

家一、牒、被二大納言正三位藤原朝

2 「難波からの北上路」の復原―駅路の存
在

次の記事は『平安遺文』(25)の最初に載